

ジェットロ「ビジネス短信」添付資料

シェブロン・ノーブル・エナジー買収に関する背景

遡ること一年以上前、2019年4月にシェブロンは独立系石油ガス開発企業のアナダルコを500億ドルで買収する旨を発表したが（[2019年4月16日記事参照](#)）、直後に独立系石油ガス開発企業のおキシデンタルが570億ドルで買収する提案を示し、アナダルコの株主は最終的におキシデンタルによる買収を選択したため、シェブロンはアナダルコから違約金10億ドルを受け取ることになるという買収劇が繰り広げられた（[2019年8月9日記事参照](#)）。

現在米国の石油ガス生産事業者は、新型コロナウイルス感染症拡大により原油需要低下に伴う原油価格低迷、天然ガスも昨年来の供給過剰によるガス価格低迷に直面している上に、信用格付けの低下により資金繰りが悪化して経営破たんする企業も増えており（[2020年7月17日記事参照](#)）、大型買収はこの状況下で予期されてきたところである。

しかしながら、ノーブル・エナジーの株価は、昨年末の一株当たり24ドル近くから10ドル前後の水準まで大きく下がったものの、未だ破たんに直面する水準には程遠い。一方このような状況下で、シェブロン以上の好条件を提示する企業は想定し難いが、近年の石油ガス生産事業者間の買収としては、昨年のおキシデンタル買収に次ぐ規模であるだけに、今後のノーブル・エナジー株主の判断が注目される。

以上